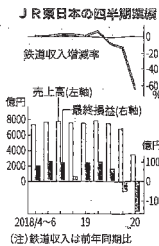


ジョブローテーション、乗務員勤務制度改悪、ダイ改合理化、ローカル線切り捨て反対！ 定年延長と65歳まで働ける職場を！

「1000億円コストカット」?! 大合理化・労組破壊に反撃しよう



項目	2020/7/31 (19)	2019/7/31 (18)	前年同期比
売上高	8,600	8,400	+2.4%
最終損益	1,000	1,200	-16.7%
営業収入	8,000	7,800	+2.6%
営業費用	7,000	6,600	+6.1%

終電繰り上げ検討

業績悪化は、これまで2000億円前後の赤字に比べ、19年度は1700億円、20年度は1553億円と、赤字幅が縮小した。これは、営業収入が前年同期比2.6%増えたことや、営業費用が6.1%削減されたことによる。特に、営業費用のうち、人件費が前年同期比4.5%削減されたことが大きな要因と見られる。また、営業収入のうち、鉄道収入が前年同期比2.6%増えたこと、営業費用のうち、営業費用が前年同期比6.1%削減されたことが大きな要因と見られる。

JR東最大の赤字1553億円

外出自粛売上高が半減 4~6月最終

2020/7/31 日経新聞

金儲けがすべ
てだ”とでも
いうのでしょ
うか。公共交
通を担う会社
の社長が言う
言葉ではあり
ません。
“これまで
なら簡単でな
かったことも
コロナに便乗

すれば強行できる”と考えているのです。
画策される大合理化攻撃
大規模な要員削減、賃金抑制や賃下げが狙われています。とくに会社は5万3千人の社員の内1万3千人を占める乗務員を問題にしています。乗務手当廃止をはじめとした大々的な賃下げ攻撃を狙っていると見る必要があります。
また、終電繰り上げなど列車運転本数の大幅な削減が計画されています。それは中長編成ワゴンマン化や新乗務員勤務制度と一体で運転士・車掌の大規模な要員削減につながるものです。
「業務量減少その他経営上の都合により休業を命ずる」という就業規則改悪も重大な攻撃です。労働者の首切りや地方ローカル線廃止のための手段にまでなるからです。
社友会でなく職場に闘う労働組合を
JRはコロナに乗じて労働者の労働条件や雇用を奪おうとしています。だからこそ、労働組合をめぐる闘いが最大の焦点です。社友会による職場支配を絶対に許してはなりません。
団結を守りぬくことができれば、労働組合の力は決して小さくありません。動労千葉は国鉄分割・民営化や外注化攻撃との闘いで、そのことを示してきました。職場に必要なのは闘う労働組合です。

JR東は4ヶ月6月期の連結決算で1553億円の赤字を計上しました。そして1000億円のコスト削減を今年で行う計画だと公表しました。夏季手当の削減で約110億円が削減されています。これだけでも許しがたいのに、その9倍以上のコスト削減をやるといいます。
コロナ禍に便乗するな!
深澤社長は、「コストが下からなければ会社は存続できない」「大胆にコストを見直す」と打ち出しています。これまで30年余り巨額の利益をあげ続けてきたのに、今期の数値だけを振りかざして労働者を脅しているのです。
さらに「鉄道ありき」でものを考えるな」とまで言っています。鉄道などどうでもいい。金儲けがすべ

“これまでなら簡単でなかったこともコロナに便乗
コロナに便乗
コロナに便乗